

犬神家の一族

原作■横溝正史 角川文庫版 / 市川 崑 監督作品

東宝

石坂浩二
 あおい輝彦
 島田陽子
 高峰三枝子
 草笛光子
 三条美紀
 岸田今日子
 坂口良子
 川口晶
 横溝正史
 川口恒稔
 寺田武男
 地井武
 加藤武
 大滝秀治
 小沢栄太郎
 三木のり平
 三国連太郎



霧に閉ざされた湖に
 今日もまた悪魔の仕業が…
 文学史上の金字塔を得て
 市川 崑監督が
 日本映画始まって以来の
 華麗なる恐怖を生みだした

製作■角川春樹
 市川喜一
 脚本■長田紀生
 日高真也
 市川 崑
 撮影■長谷川清
 美術■阿久根巖
 録音■大橋鉄矢
 照明■岡本健一
 音楽■大野雄二
 衣裳協力■浅草 仲満
 ■セントラル・ビクター・レコーレ

角川春樹事務所第二回作品
 東宝株式会社配給《カラー作品》

金田耕助

犬神佐清

野々宮珠世

犬神松子

犬神梅子

犬神竹子

琴の師匠

はる

犬神小夜子

犬神佐智

猿蔵

犬神佐武

橘警署署長

大山神官

古館弁護士

久平

犬神佐兵衛

■スタッフ
 製作 角川春樹
 原作 市川喜一
 脚 本 横溝正史
 監督 市川崑
 監 影 市川崑
 美術 阿久根清
 録音 岡本健一
 照明 大野雄二
 音楽 長田千鶴
 編集 橋山直己
 スチール 加藤哲一郎
 助監督 中村賢一
 製作担当 藤田光男
 製作補 浅草・仲満
 衣裳協力 浅草・仲満

■キャスト
 金田一耕助 石坂浩二
 犬神松子(犬神佐兵衛の長女) 高峰三枝子
 竹子(次女) 三条美紀
 梅子(三女) 草笛光子
 佐清(松子の息子) あおい輝彦
 佐武(竹子の息子) 地井武男
 小夜子(娘) 川口晶
 佐智(梅子の息子) 川口恒
 寅之助(竹子の夫) 金田竜之介
 幸吉(梅子の夫) 小林昭二
 野々宮珠世 島田陽子
 はる(那須ホテルの女中) 坂口良子
 古館恭三(弁護士) 小沢栄太郎
 桶警察署長 加藤武
 大山神官 大滝秀治
 猿藏 寺田稔
 柏屋の亭主久平 三木のり平
 那須ホテルの主人 横溝正史
 琴の師匠 岸田今日子
 藤崎鑑識課員 三谷 昇
 井上刑事 辻 萬子
 青沼菊乃 大関 優子
 静馬(菊乃の息子) 原 泉
 老婆お園(松子の母) 三国連太郎
 犬神佐兵衛 三国連太郎

製作 角川春樹事務所
 配給 東宝株式会社

原作 ■ 横溝正史 角川文庫版 / 市川 崑 監督作品

犬神家の一族



角川春樹事務所第一回作品
 《カラー作品》東宝株式会社配給

解説

文庫本で知られる角川書店が角川春樹事務所を設立、東宝と提携し横溝正史原作の「犬神家の一族」を同名で映画化したものです。

横溝正史は推理作家としては今若い人に一番の人氣があり、妖しいロマンの香り：怪奇と幻想の世界：犯罪をまくろむ人間の心理：などを描いて異彩を放つ作家です。五十年代までに三百六十万部を売り、五十二年十月までに総部数千二百一十万部という驚異的な部数に達しております。

犬神財閥の創始者、佐兵衛の謎につつまれた遺言状に端を発し、血の情念に根ざす愛と憎しみ、誰もが知らなかった犬神家の系譜が現実と過去の中で徐々に剥がされ、霧の湖畔に血も逆流するような恐怖の惨劇が次々と起こってゆきます。

そして華麗なる連続殺人事件が……このロマンとサスペンスに富んだ波乱のドラマを名匠市川崑監督が鋭いタッチと迫力で描いております。「犬神家のおん念と人間模様を八分、残りの二分は中味の濃い恐怖と探偵ものにした。殺しの美学」などを含め、兎に角どろどろした娯楽超大作を作った。と語っています。

キャストは最近の日本映画界では珍しい豪華キャストが生まれ、金田一耕助には原作通りのモジャモジャ頭で石坂浩二、佐兵衛の孫娘に売れっ子の島田陽子、四年ぶりに芸能界へ戻った三条美紀が高峰三枝子・草笛光子と姉妹役を演じております。そのほか、川口恒、晶兄妹・三木のり平・三国連太郎と華やかな話題がいっぱいの作品です。

音楽は、日本ジャズ界で人気ナンバーワンの大野雄二が初めて映画音楽を手がけ、「愛のバラード」「憎しみのテーマ」の二曲を作曲、轟々たる新しいサウンドは作品を盛りあげ、ビクターレコードよりサントラ盤で発売されます。

物語

日本の製薬王といわれた信州・犬神財閥の創始者、犬神佐兵衛は、やがて血で血を洗う葛藤を予期したかのような不可解な遺言状を残して他界した。

犬神家の顧問弁護士、古館恭三の助手、若林は、莫大な遺産相続にまつわる一族の不吉な争いを予期し、金田一耕助に助力を得るための手紙を送ったが、那須に着いた金田一と顔を合わせぬまま、何者かに毒入り煙草で殺害されてしまった。奇怪な連続殺人事件は、その若林の死から第一幕が切つて落された。

佐兵衛には腹違いの三人の娘、松子・竹子・梅子があり、松子には佐清、竹子には佐武と小夜子、梅子には佐智という子供がいる。そして、犬神家には佐兵衛が今日の地盤を築きあげることができた大恩人である野々宮大武の孫娘、珠世も住んでいた。問題の遺言状は佐清の復讐を待つて公開されることになっていたが、戦争で顔を負傷した佐清は、仮面をかぶって一族の前に現われた……。

遺言状の内容は、犬神家の全財産と全事業の相続権を意味する三種の家宝、斧、琴、菊を佐清、佐武、佐智のいづれかと結婚することを条件に、珠世に譲渡する、というものだった……。

しかし、幼い頃から佐清に想いを寄せていた珠世は仮面の佐清に疑惑を抱き、佐武を呼び出して指紋照合を依頼したが、その翌日、佐武は花鋏で殺され、生首だけが菊人形の首とすげかえられているのが発見された。次に佐智は琴糸を首に巻きつけられて、そして時を経ず、斧で殺された佐清……。犬神家の家宝「斧、琴、菊」(よきこと聞く)は、いまや祝いの言葉ではなく、呪いの連続殺人の呼称に使われたのだ……。私立探偵金田一耕助によって、犬神家の血の系譜が次々と過去にさかのぼって、解明されてゆく……。